

NPO鳴門「第九」を歌う会だより
“友よ”

リーバー フロイント

Lieber Freund

vol.11

発行：NPO法人 鳴門「第九」を歌う会事務局
TEL 088-686-9999 FAX 088-686-9994

<http://www.tv-naruto.ne.jp/daiku/> E-mail: naruto_daiku@yahoo.co.jp

2011年7月31日発行

30回の記念すべき節目の第九演奏会を 皆様と迎えられたことに深く感謝いたします

2011年3月11日の東日本大震災、福島原発の放射能汚染は、100日を過ぎた今も、復旧・復興の目処さえついていない現状でございます。

この歴史的な大災害の中で第30回第九演奏会が行われました。音楽を演奏してもよいのだろうか。被災者に申し訳がない。自粛するのが被災者の心に添うものではないか。主催者として、皆で思い悩みました。

世界中の音楽家が「音楽で、被災者を勇気付けたい」と、被災地で、世界の各地で演奏会が行われました。4月10日、世界的な指揮者ズービン・メータ氏とNHK交響楽団、東京オペラシンガーズ、日本を代表するソリストによる『第九』交響曲が演奏されました。全ての演奏者が被災者への熱い思いを体中で表現し、被災地の復旧・復興への勇気を呼び覚まそうとしている姿に、テレビの前で涙がとまりませんでした。

私達も、この気持ちこそ大切と、第九日本初演の地として、勇気を持って開催準備をいたしました。全国から47団体、さらにアメリカからロサンゼルスとニューヨークの仲間も参加してくれました。

苦しい状況のなかを宮城県岩沼市から2名の方が駆けつけてくださり、全国の仲間とともに元気な姿で合唱できる喜びを味わいました。ふくしま第九の皆様からは、「来年は、必ず鳴門へ行くから、がんばってください。

演奏会の成功を祈っています」とのメッセージとともに、お祝い金まで頂戴し、被災地の方々の温かで強い心に勇気をいただきました。

「すべての人類は兄弟となる」という第九の崇高な精神が、実感となって胸に迫ったのでした。

本年は、第30回を記念して、全国公募による若手ソリストと630人の合唱団、81名のオーケストラ、総勢715名の演奏者が集いました。鳴門教育大学の山田啓明先生の指揮のもと、心をひとつにして1400人の観客に、東日本大震災被災地の皆さんに、一日も早い復旧・復興を祈って力いっぱい演奏し、その思いを届けるためにがんばりました。

鳴門「第九」演奏会は、第30回を契機として皆様のお力添えを得て、若手ソリストの登竜門となることを目指しています。これからも第九日本初演の地として、文化遺産の継承発展に努力いたします。ご指導、ご支援をいただきました関係者の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、被災地の皆様に安らかな日々が一日も早く参りますようお祈り申し上げ、ごあいさついたします。

(NPO法人 鳴門「第九」を歌う会理事長 大塚 道子)

Naruto Daiku

30th



鳴門史上最大の第九

1982年、鳴門市文化会館のこけら落としとして第九演奏会を開催して以来、鳴門市では6月の第1日曜を「第九の日」と定め、演奏会を重ねてきました。あれから30年。鳴門は「第九日本初演の地」として第九を歌う仲間にとっては聖地ともなり、第九を核にしたさまざまな活動は私達の生活になくてはならないものとなっています。

Naruto Daikoku 30th



昭和57年(1982)春に記念すべき初の「第九」演奏会を開催しました

30年を振り返って

30回出演 ソプラノ 岩井 良子さん

「鳴門市文化会館のこけら落としでベートーヴェン“第九”を歌おう」——この徳島新聞の記事を見た主人が良い機会だと勧めてくれ、一大決心で申し込んだのが私の「第九」30年の始まりでした。

不安を抱えながらも練習が進み、いよいよソリストさんと合わせる日、見事な歌声に聴き入り歌い出すのを忘れてしまった事や、オケ合わせでは入りが

難しく本番で飛び出しはしないかと心配したのも懐かしい思い出です。

これまでの演奏会は私にとって大きな勇気を与えてくれました。これからもまだまだ歌い続けたいと思います。

第1回からずっと歌い続けてらっしゃる岩井さんに、30年選手を代表してコメントをいただきました。苦労しながら歴史を築いてくださった先輩たちがいて、今の華々しい鳴門第九があるのですね。35年、40年に向けて頑張っていきましょう。

中 祈 東日本大震災被災地復興
第九交響曲演奏会



30回を祝って、今年は鳴門史上最大の630名の合唱団が参加。全国からつめかけた仲間が肩を寄せあい、山田啓明さんの熱いタクトのもとに、第九への思い、歌う喜び、そして復興への祈りを会場いっぱいに響かせました。

指揮／山田 啓明
管弦楽／徳島交響楽団

独 唱／ソプラノ：國方 里佳 アルト：鈴木 紀子
テノール：山本 欽也 バス：伊藤 貴之

合 唱／NPO法人 鳴門「第九」を歌う会
全日本「第九を歌う会」連合会
49団体630名

感動のプロローグ

初参加 アルト 川原 洋子さん

夏目漱石の『吾輩は猫である』風に例えるならば、「吾輩は音痴である」となります。それもかなりの重症。鼻唄でさえ見事に音を外すほど。名前はまだ無い。私にはリズム感が全くない……である。

そんな私が第九を歌うことに。無謀以外の何物でもない知りつつも。

案の定、初心者初回練習日は自分の無能さに改めて驚愕。ひとつの音さえまともに取れず、そのうえドイツ語。無理かもしれないと一抹の不安がよぎりはしたものの、何度も挫けそうになりはしたものの、頃安先生をはじめ、個性あふれる先生方のパワフルで熱心なご指導のおかげで、少しずつ音がとれるようになり、歌えることの楽しさを覚え、練習が楽しくて仕方ありません



でした。パート別・合同練習を経て30周年という記念すべき舞台へといざ出陣。

指揮者のタクトが、630人の歌声とオーケストラの音を溶けあわせ、歓喜の響きへと導き、歌い、奏で、聴く者たちの心を、会場をひとつにしていく様は凄いと思いました。心が震えました。血湧き肉躍るとてつもない感動でした。涙が出ました。

そしてこの感動の源は、鳴門第九を心から愛し、支え、守り続けている方々の計り知れない尽力のおかげと知りました。先生方をはじめスタッフの皆さんに心より感謝です。本当に素晴らしい感動をありがとうございました。

私の第九の序章は始まったばかり。諸先輩方のように10年20年歌い続け、未来へ繋いでいきたいと願っています。

PS. 吾輩は上手に鼻唄が歌えるようになりました。

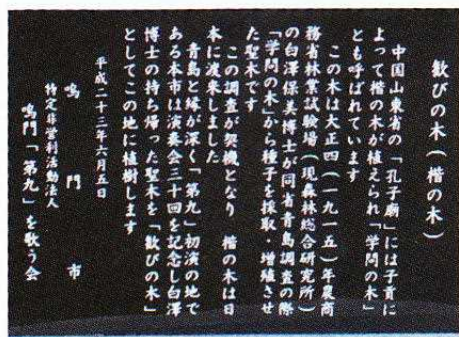


「いつも最前列で、熱心に、楽しそうに歌う姿に、指導する側もヤル気をかきたてられます。これからの第九を支えていってくださいね」と、指導者の大井美弥子先生からのコメントです。

大きく育て!“歓びの木”



ゲネプロの熱気さめやらぬまま、5日12時30分より第九演奏会30周年記念植樹が行われました。文化会館の一角に植えられたのは4mほどの「^{かい}榊」の若木。この木は、大正



木の傍らには記念碑も建立

4年(1915)、白澤保美博士が山東省青島調査の際、「孔子廟」に植わっていた木から種子を採取し、増殖させた聖木だとか。現地では「学問の木」と呼ばれており、4～5月に小さな花を咲かせ、秋には美しく紅葉します。

青島と縁が深い鳴門にもしっかりと根を張ってほしいとの願いをこめて「歓びの木」と名付けました。第九のシンボルとしてみんなで大切に育てていきましょう。全国の皆さんも、この木の成長を毎年見に来てくださいね。

盛況だったワークショップ



緑あふれる庭園でベートーヴェンといっしょに記念撮影。明日の演奏へのイメージーションがふくらみましたか？

今年の第九グッズは…

第九の楽譜に筆記用具、ハンカチ、飲みもの——レッスンに欠かせないグッズがきちんと収まるトートバッグが、今年のグッズです。公募により、鳴門市の清水美寿穂さんのキュートなデザインを採用。大きさや材質、色も、アンケートで皆さんの意見を反映させ、2種類(Mサイズ800円、Lサイズ1,000円)を制作したところ、300点がほぼ完売！グッズ売り場はうれしい悲鳴を上げました。

また、昨年大人気だったオリジナルTシャツに、新たに30周年限定の3色(ネイビー、チェリーピンク、グレー)を制作したところ、こちらもすごぶる好評！8月21日に鳴門市ドイツ館で開催される「第九フェスティバル」にも、この色とりどりの第九Tシャツで出場します。鳴門第九の新しいユニフォーム、素敵ですね♪

さあ、来年はどんなグッズができるでしょう？ みんなで意見を積み重ねる過程も大切にしたいですね。



シックな紺はもちろん、肌色が明るく映えるチェリーピンクも人気！

一昨年、昨年は演奏会が2日開催だったため、ワークショップの時間が第九合唱練習と重なり、希望に添えませんでした。今年はたっぷり時間をとって「第九の運営について」「シラーの詩『歓喜に寄す』～その精読から見えるもの」「現地研修：第九日本初演縁の地」の3つの分科会でグループ討議、その後、全体会を行いました。初の試みとなった鳴門市ドイツ館での現地研修には27名が参加。板東俘虜収容所の模型、俘虜たちの精力的な活動を紹介するパネルや資料、そして第九初演の様子を実物大の人形が再現する「第九シアター」などを熱心に見学し、歴史的な背景を学びました。



鳴門の第九の“顔”といえば、浅野ご夫妻です。やわらかな語り口となんともいえない笑顔で県内外のメンバーをまとめる司郎先生、そして率先して裏方として走り回り、細やかな心遣いで私たちがケアしてくださる里江先生。「第九」を通じてより強く結びついている二人の姿は私たちにとって憧れの夫婦像です。30年を記念して、ささやかな感謝の気持ちを贈らせていただきました。

「明日はお二人共ドレスアップでいらしてくださいね」——6月3日夕方、明日の準備万端整えて帰り支度をしているとき、吉永先生からこんなお声がかかりました。「え？どうして？」と理由を聞く間もなくあわただしい一日が終わり、いよいよ明日は温かく全国のお客様をお迎えしなければという思いだけが頭一杯を占めていました。

当日、何事が起こるのか予想もつかず、舞台裏で待機。全日本の皆様、鳴門の皆様への感謝状、30回記念参加証贈呈の後、舞台に呼ばれた私達2人に思いもかけず、六百名の合唱団員の皆様の前で、泉市長様より晴れがましい感謝状が贈られたのです。とても重みのある美しい盾に「……献身的な貢献をされ……」と身に余る言葉が刻まれていました。

私達は、ただ理事様と事務局の皆様とご一緒にささやかなお世話をしてきただけですのに。感謝状をいただけるなら、いやな顔ひとつされずに、一緒に足並みそろえ頑張ってくださいました理事会・事務局の全ての皆様に戴いたものだと確信しています。喜寿を過ぎた私たち二人は、いつもいっぱいミスをしながらか「二人で一人前だね」とカバーしあって、理事・事務局の皆様にご助けられ、どうかこれまで歩みを続けて参りました。



藍色の感謝状を入れ込んだガラスの盾。
お二人の謙虚な人柄をイメージしました

感謝状は、みんなへの贈り物

浅野 司郎・里江



全国の仲間に見守られ、6月4日、感謝状贈呈
セレモニーが行われました

思えば、それまで文化会館職員の皆様にすべて頼って、ただ合唱練習をするのみの毎日でした。お隣で歌っている方との交流もなく、演奏会が終わったら解散という日々でした。その後、平成11年に「鳴門第九友の会」が結成されました。「会員の皆様には、知恵も労力もお金も出していただいて、鳴門第九が鳴門市の文化活動の原動力となりますように」との亀井市長さんのお言葉と共にスタートが切られ、友の会会長に浅野司郎が就任。同時に事務局も結成されました。多くの会員が各種ボランティアに協力してくださり、総会・研修会・コンサートなどを企画、実践して参りました。平成15年より「友の会」から「NPO法人 鳴門第九を歌う会」に移行され、初代理事長に大塚道子様が就任され現在に至っています。

研修会や、全国の第九への参加、更にはドイツや中国への第九里帰り公演など多くの行事を通して、第九仲間の横の連結が強まり、みんな温かい仲間となりました。鳴門第九合唱団「コーラス9」も立ち上がり、大井美弥子先生御指導のもと、年間を通して、活発に活動が続いています。いろいろなところで一杯頑張ってくださいている第九仲間への感謝の気持ちを込めて、すべての皆さんへの感謝状と思いながら、大切に預からせて頂きます。

本当にありがとうございました。

「すべての人々はみな兄弟となる」というシラーの崇高な詩、
ベートーヴェンの雄大な音楽が今回ほど胸に迫ったことはありません。
歌うことの意味を考えさせられた演奏会でした。



「こんなときだからこそ歌いたい」 ——胸を打った二人の笑顔

「岩沼みんなで歌う第九の会」の石川陸雄さん(左)と浅尾末治さん(右)は、被災をのりこえて8回目の参加。二人とも何度も死を意識するような状況のなか、「こんなときだからこそ、第九を歌うことに意味がある」と参加を決意されました。二人が歌う姿に、私たちの方が勇気づけられました

3月11日、東北地方を襲った大震災の報を受け、知人友人の顔が、そして、毎年いっしょに歌う東北や関東の仲間たちの顔が頭をよぎりました。

特に被害の大きかった「岩沼みんなで歌う第九の会」と「ふくしま第九“すみだ”歌う会」では、メンバーの無事は確認されたものの、津波で家屋が倒壊したり、車が流出したり、なかにはご親族が行方不明の方も…。鳴門「第九」を歌う会では練習のたびに会員に義援金を募り、演奏会前日・当日も懸命に募金活動を行いました。

演奏会には困難な状況のなか「岩沼」から2人が参加。「ふくしま第九“すみだ”歌う会」は演奏会には参加できないけれど、お祝い金の心遣いまでいただきました。元気で歌える幸せ、第九を通じて人と結びつける幸せを

かみしめ、東北に私たちの祈りを届けたいと心をひとつに歌いました。

まだまだ厳しい状況が続いていますが、12月18日には会津若松市文化会館「會津風雅堂」に於いて復興祈願の第九演奏会が開催されます。もちろん、鳴門からも応援に駆けつけます。歌うことをエネルギーに東北の仲間頑張っています。来年は、鳴門でお会いできますように。ぜひ、いえ、きっと——。



「頑張れBrüder!」—— 海を渡って兄弟たちからエール

「L.A. Daiku」の皆さんが復興に寄せる思いを日の丸に寄せ書きしてはるばる持ってきてくださいました。演奏会ではロビーに掲げられ、交流会で「岩沼みんなで歌う第九の会」のメンバーに手渡されました



義援金へのご協力ありがとうございました

- ◆ 鳴門第九の皆様から寄せられた義援金は196,990円、演奏会前日には全国の出演者から137,860円の義援金が寄せられました。これらは全額、「岩沼みんなで歌う第九の会」と「ふくしま第九“すみだ”歌う会」の2団体にお送りしました。
- ◆ 6月5日・6日には会津若松市への義援金として両日で405,883円が寄せられ、6月8日に鳴門市文化交流推進課にお渡ししました。
- ◆ また、指揮者の山田啓明先生はこのたびの出演料を全額、会津若松市へと寄付されました。



会津若松市は板東俘虜収容所の所長を務めた松江豊寿さんの出身地です。避難民の受け入れで支援を必要としています。演奏会の後、市長さん、合唱団員もロビーで懸命に呼びかけました

大塚国際美術館は古今の名画を
実物大で精巧に再現した陶板美術
館です。なかでも、名画の置かれ
た空間ごと再現した環境展示は臨
場感に圧倒されます。その代表的
なシスティーナホールで第九を！
との呼びかけに、県外から26団体
127名が集いました。

桐生EBSU合唱団、ニユー
ヨーク第九シンガーズの西谷尚武
さん、鳴門「第九」を歌う会の演奏
に続き、公募ソリストによる独唱、
そして「第九」交響曲第4楽章を演
奏しました。ミケランジェロの「最
後の審判」「天地創造」に囲まれた
荘厳なホール——祈りのうたを捧
げるのにこれほどふさわしい場所
はありません。「星の彼方に愛す
る神が住んでいるに違いない……」
高い高い天井に声が立ちのぼり響
き合うのを感じました。

演奏会のもようは全国ニュース
でもとり上げられ大きな反響を呼
びました。来年も国民文化祭参加
事業として、ミュージアムコンサー
トを行う予定です。多くの方のご
参加を楽しみにしています。

大塚国際美術館ミュージアムコンサート

～システィーナ・ホールに響け！祈りのハーモニー～ 2011年6月6日

活動の記録

第九を通した音楽文化の普及、地域や全国の仲間との交流も私たちの大事な活動です。
今年もたくさん練習し、たくさん歌いました♪

県内研修

❖平成22年度総会 & 研修会

2010.7/11 於：鳴門市ドイツ館 78名参加

懐かしい戦後歌謡曲をマリン・トリオ(吉永紀美子先生・吉永理恵さん・浜田浩徳さん)のリードで楽しく歌いました。その後、徳島市出身のソプラノ歌手・井上ゆかりさんをお迎えしての研修会。栗田美佐さんのピアノにのせて、日本歌曲やドイツリート、オペラ・アリアを歌っていただきました。なかでも、アリアは真骨頂!歌劇『ファウスト』より「宝石の歌」の艶やかな歌唱には胸がときめきました。



❖第3回とくしまINAKA博覧会に出演

2010.9/25 於：アスティとくしま 135名参加



ピアノ連弾と打楽器による伴奏は迫力満点。阿南三好の仲間とともに熱唱しました

観光振興のための大型イベント「とくしまINAKA博覧会」オープニングを第九が飾りました。

指揮：頃安利秀 ソプラノ：真鍋美恵 アルト：戸邊祐子
テノール：越智慎悟 バリトン：北村僚真 ピアノ：加藤佳子・土肥彩 打楽器：岡崎俊幸

❖新春にフジグラン北島で「第九」を歌おう!!

2011.2/20 於：フジグラン北島 96名参加



鳴門出身でプロの打楽器奏者として活躍されている福島喜裕さんを迎えて、ピアノ連弾で行いました。1階から2階からお客さんの熱い視線を感じました。
指揮：山田啓明、ソプラノ：真鍋美恵 アルト：戸邊祐子
テノール：頃安利秀 バリトン：北村僚真 ピアノ：吉成くみ・田村美保 打楽器：福島喜裕

コーラス9

❖ドイツ・フェスト in 鳴門

2010.10/24 於：鳴門市ドイツ館

指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理恵



❖鳴門市芸能祭

2010.11/14 於：鳴門市文化会館

「雀のミサ」から3曲を演奏。練習はドキドキでも本番はビシッと決めるのはさすが?コーラス9。いいんだか悪いんだか(笑)。

指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理恵

❖コーラス9第6回演奏会「クリスマスコンサート」

2010.12/23 於：鳴門市ドイツ館

2010年はモーツァルトのミサ・プレヴィス ハ長調 K.220『雀のミサ』に取り組みました。毎年新しい曲に挑戦するのは大変ですが、曲に魅せられ、山田先生の指揮にノセられ、楽しく歌い上げました。

指揮：山田啓明 ソプラノ：真鍋美恵 メゾソプラノ：戸邊祐子
テノール：頃安利秀、豊成哲 バリトン：北村僚真 ピアノ：加藤佳子、平賀理恵 合唱指導：大井美弥子



10周年を迎えました♪ Chorus9

合唱の能力を高め、声を合わせる楽しさをもっと味わいたいと2001年に結成した「Chorus9」も気がつけば10周年。充実した声とハーモニーを目指して、大井美弥子先生の指導のもと楽しく練習を重ねています。今年は名曲と名高いシューベルトのミサ第2番を演奏します。ぜひおこしく下さいね。

♪「コーラス9」第7回演奏会♪

12/23(金)13:30~(予定) 於：鳴門市ドイツ館

問合せは浅野 ☎088-686-1296

県外研修

❖2010「かがわ第九」演奏会に参加

2010.11/7 於：香川県高松市・アルファあなぶきホール

❖斗南140年祭記念第九演奏会に参加

2010.12/26 於：青森県むつ市・下北文化会館

❖国技館5千人の第九に参加

2011.2/27 於：東京都・両国国技館

…… お悔やみ ……

全日本第九を歌う会連合会副会長を務められ、鳴門第九をこよなく愛して下さった鈴木淑弘さん(船橋第九合唱団代表)が6月30日、講演中に倒れられ、急逝されました。生前のご厚情に感謝申し上げますとともに、突然のご逝去を悼み、ご冥福をお祈りいたします。



こすろ 広報部

●記念行事が目白押し。タイムスケジュールはめいっぱい。ひな壇の上は630人がぎっしりみっちり! おかげでカメラのメモリーは満杯。なにかと(?)充実していた30周年の第九。その充実ぶりをお伝えしようと、会報も拡大版の8ページでお送りしました。お楽しみいただければ幸いです。(広報委員一同)